

< 会員投稿 >

◇ オーディオ装置組立記

大槻伸次

我が家にはずっとオーディオ装置なるものが存在した。1代目は真空管式の自作アンプ（出力管 6BM8 プッシュプル）、2代目は真空管式の TRIO 製 W-35 ステレオアンプ、3代目は真空管の時代は終わってソリッドステートの VICTOR 製 A-X900 ステレオアンプだった。この VICTOR 製アンプは音質がよく気に入っていたが、寄る年波には勝てず（左右の音のバランスが極端にとれなくなってしまった）8年位前に引退させた。それと同時期にアンプ等を納める化粧合板製のオーディオボード（TECHNICS）も老朽化し、全面のガラス扉にもがたがきて見栄えが悪くなってしまった。そこで、この機会にお金をかけてオーディオ装置を一新するか考えたが億劫になり再建を諦めオーディオボードは廃却し、アンプ以外のプレーヤー等はとりあえず納戸にお蔵入りとした。

その後、鳴り物がないのも寂しくなり、サイドボードの上にちょこんと収まるラジカセのあんちゃん風の卓上オーディオ装置（4代目・ONKYO 製）を購入した。以来十余年、最近になってこの卓上オーディオ装置のラジオが突然聞こえなくなり、更に CD と MD のかかりも悪くなって女房から何とかならないのかと問われるようになってしまった。

そのことがずっと頭の中であって家の中を整理していたら、8年前位まで使っていたオーディオ装置の残骸である CD プレーヤー（PROSCO 製）、W カセット・プレーヤー（MARANTZ 製）、レコード・プレーヤー（DENON 製）、AM・FM チューナー（OTTO 三洋製）、HIFI スピーカー（SONY 製 2 台・TECHNICS 松下製 2 台の合計 4 台、スーパーウーファースピーカー（AIWA 製）1 台達が埃をかぶった状態で見つかった。これらは時間の経過と共に忘れ去られてしまった物達であるが、他に拡張型のサラウンド用ステレオアンプ（NEC 製デジタルディレイ・サラウンドプロセッサ AV-251）とスピーカー 2 台（AIWA 製）も出てきた。しかし、このまま置いておいても場所塞ぎであるし、どうせ使い古したよろず物なので動かないだろうからこの機会に処分してしまおうと考えたが、待てよとなった。確認して何とか使えるものがあれば中古の買い取り店に持って行けばいくらかは貰えるかもと欲が出た。

そこで埃を払って、一品一品確認するとなんと皆使えそうなのである。そこで何時頃買ったものなのか思い出してみたところモノによっては 20～30 年前にはすでに我が家にあったような代物なのである。なかでも AM・FM チューナーは旧三洋電機のオーディオブランド名である「OTTO」の銘板がついていて、もともと中古で買ったものなので相当に古いものようだ。

また、絶対使えないと思っていたのがレコード・プレーヤーで、この類のものはターンテーブルの駆動ドライブにゴムのベルトが使われるのが一般的で長期間そのままだと劣化してしまうのであるが、驚いたことにフワフラッターも感じられず音をちゃんと再生したのである。W カセット・プレーヤーは、カセットの出し入れする扉が油切れだろうかギイギイと音がして開閉がうまくいかなかったが、何度か動かしていた

ら問題なく使えた。そこで、発見された全品が完動品ということになり本当に驚いたと同時に日本製の頑丈さと品質に感服した。

これだけ使えるものがあるのならタダ同然の値段（古すぎて売れるか疑問だが）で売ってしまうより自分で活用する方が賢明だと考えが変わった。というのは、現在使用している卓上の小型オーディオの調子がイマイチというのもあったからである。

そこからというもの現在あるものを活用しできるだけお金をかけずにオーディオ装置を作るのにはどうしたらいいかを考えた結果、「ハード・オフ」や「ヤフオク」の中古品を活用することにした。

第1はアンプ等を納めるオーディオボードの調達から始まった。あちこちの「オフ・ハウス」店を探し歩いたところなんと2,000円の縦型のボード（新古品・写真）が見つかった。さて、次はメインアンプであるが、安いのは1万円以下のものもがざらにあったが、あまり安いものは年式が相当に古くていつ壊れてしまうのかわからないので対象外（ジャンクと表示されている）とした。

その後、昨年暮れごろからメインアンプを探し歩いたところ（ヤフオク等も含）市内の中古品店でYAMAHA製A-S301（2014年製）が見つかった。値段は16,800円だったが、年式も比較的新しくあまり使用した形跡がなく（大型家電店のデモ用として使っていたらしく店の保証書も有効期限内だった）格安と見て買ってしまった（カタログとリモコンもちゃんと付属していた・3か月保証もついていた）。

そこそこのメインアンプが手に入り、部品は揃ってよいよ組み立てるだけになったが、今年の冬は厳寒でお開帳が億劫になりなかなか手がつかなかった。そうこうしていたらあつという間に2018年も3月になり急に暖かくなった。そこで、ここいらでスタートしないといつ始められるかわからないので、思い切って組み立てを始めることにした。

組み立てにあたって、部品の点検をしたらアンプとCDプレーヤーなどを接続するピンプラグ（ダイソーの3本線の物（108円）のビデオコードを無視しても使える）は全て揃っていたが、スピーカーを接続するコードはなかったので「ジョイフル本田」の電気コーナーで買った（断面積の太い撚線コード・2平方ミリ・何倍もの値段の高級品もあった）。他にオーディオボード裏側の4か所の穴あけ加工は、ケガいた4隅にホールソーで穴あけ加工をして直線部分は金鋸で切り落とした。

金鋸は、ダイソーで買った（4本入りで108円）が、ボードの裏板が紙を固めたような材料だったので十分だった。他に木工用の鋸も108円で買って試しに使ってみたが、切り口の仕上がりが良くないのでやめた。

材料とオーディオボードの加工など全て終わって、さあ組み立てようとボードにアンプやら何やらを乗せたところ相当重くなってしまった。これでは組み立て後に、ボードを動かすのも大変と感じたので急遽、ジョイフル本田にて20ミリ厚のパイン集成板材とキャスター4個を買ってきて移動台を作成した（パイン集成材1,800円とキャスター4個の合計2,300円也で、オーディオボードの2,000円より高くなってしまった）。組み立ては準備が整った翌日朝から始め、夕方には音出しができてほぼ完成した。そこで、久しぶりに大音量でモーツァルトのピアノ協奏曲20番・21番（CD）やYou Tubeから作成したCD（ソプラノ森麻季のさくら、ハナミズキ、手紙、落葉松等）

を試聴してみたところ、卓上型のオーディオ装置とは段違いの音質で久しぶりに若いころを思い出しながら聞き入ってしまった。

今回、本格的な？オーディオ装置を作成してみたが、過去に使っていたよろず品を有効活用した結果2万円弱で本格的な装置を作ることができた。そこで、現在流行のハード・オフやヤフーオークションなどを有効活用すれば、新規に作っても格安に作ることができるのではないのでしょうか。また、今回発見されたサラウンド用のアンプとスピーカーも確認して使えそうであれば、追加してみようかなとも思っている。



▼上記写真・今回制作したステレオ装置。オーディオボードの上はアイワのスーパーウーファー。オーディオボード内上端から FM・AM チューナー、CD プレーヤー、W カセット・プレーヤー、新たに購入した YAMAHA メインアンプ、最下段はレコード・プレーヤーとなっている。周囲のスペースに余裕があればスピーカー類は床に直置きし、レコード・プレーヤーはボード上に置けば使い勝手良かった。

▼2代目アンプ TRIO の W-35 は、昭和 36 年頃の発売であったが、当時は高価(36,000 円・当時の給料は 5,000 円～6,000 円位)で買えず、後になって中古を買ってメンテナンス (Output-Trance と電解コンデンサー等交換) して長期間愛用した。このアンプは AM チューナー 2 個付で「東京ラジオ」と「文化放送」とのコラボによるパイオニア提供のイブニングステレオを HIFI ステレオで聞くことができた (当時)。更に NHK より FM 放送が開始されたのに伴い FM チューナー (モノラル) が付属した。